

学校教育目標	「ふれあいいっぱい 夢いっぱい 笑顔でチャレンジ 初音っ子」 ○主体的に学習に取り組み、自分の考えを深め、粘り強く課題を解決する子を育てます。(知) ○礼儀や規律を重んじ、場をわきまえた言動を行い、自他を大切にすることを育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身に付け、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体) ○まちを愛し、地域や社会のために貢献しようとする子を育てます。(公) ○『ひと・もの・こと』とのかかわりを大切に、広い視野でともに生きていく子を育てます。(開)			
	創立 62 周年	学校長 坂本 陽子	副校長 正木 俊行	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 5

学校概要	児童生徒数: 551 人	主な関係校: 橘中学校・仏向小学校・今井小学校・藤塚小学校
------	--------------	-------------------------------

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	橘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題を発見し、解決する力> <自分づくり> <言語能力>	橘中学校 仏向小学校 今井小学校 藤塚小学校 初音が丘小学校	自己肯定感をもち、豊かに表現し、他者と学びあう子ども ・各校で縦割り活動を充実させたり、児童生徒交流日等で6年生と中学生が交流を進めていくことで、自己有用感を高めていく。 ・考えや思いを伝え合う活動を通して、自他を大切にしたり、自ら学ぶ機会を増やしていく。 ・小中一貫カリキュラムに基づいた合同授業研究会を実施し、学力向上を目指した授業改善を図る。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切に、豊かな学びを創造し、「誰もが」「安心して」「自分らしく」過ごせる学校を創っていきます。 ○社会(ひと・もの・こと)とつながり、SDGsの視点を活用しながら課題を見付け、その解決に向けて行動できる子の育成を目指します。 ・問題解決的学習を軸とし、学ぶ楽しさ・分かる楽しさが実感できるような教育を推進し、自ら考え、表現できる子の育成を目指します。 ・子どもたち一人ひとりが自分自身のよさを見出し、自己を伸ばそうとしながら楽しい学校生活が送れるようにします。 ・基本的な生活習慣の充実を推進し、健康な心身を育むようにします。 ・様々なひと・もの・ことと積極的にかかわり、社会に貢献しようとする心を育てます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 研究・研修部	①課題解決型の学習を全教科・領域で進める中で、育成を目指す資質・能力と学校の教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力の関連を明確にして、単元の評価規準を設定する。②教科等の「見方・考え方」を踏まえた、魅力ある単元計画を作成する。③本時で目指す子どもの姿、それに迫る手立てを明確にする。④目指す振り返りの質的方向性について共通理解を図る。
徳 豊かな心 担当 人権・道徳部	①重点目標を定め、教育活動全体で道德教育の推進を図る。②重点研を中心に、「分かる」「楽しい」授業づくりを行う。③YPアセスメントを積極的に活用し、子どもたちの心に寄り添った教育活動を展開していく。④人権週間における豊かな心の育成を行う。系統的な指導について、検討する。⑤ペア学年による創意工夫ある取組を進める。
体 健やかな体 担当 食育・保健・体育部	①体力向上1校1実践運動(投げる・跳ぶ運動)を通して進んで体を動かす子を育てる。②年7回のバランスイーナタイムを実施し、食育と学校保健委員会の充実を図り、家庭と連携した健康教育の向上に努める。③体育学習の一層の充実と外遊びの奨励を進め、体力向上につなげる。
公開 教育課程学習指導 担当 教育課程・評価部	①低学年は生活科、高学年は理科、社会科での研究授業を実施し、育成を目指す資質能力を明確に授業力向上を目指す。②教育課程全体で育成を目指す資質能力を広く保護者、地域に発信し、開かれた教育課程を実現していく。③学年内教科等担任制を積極的に取り入れ、より多くの目で児童の実態把握を行うとともに、授業力向上・担任一人にかかる教材研究の時間を縮小すると共に、効果的・効率的な学習指導につなげる。
いじめへの対応 担当 児童指導部	①月1回いじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うと共に、職員間の共有を図り、再発防止に努める。事案発生時には速やかにいじめ防止対策委員会を行い、対応する。②研修を行い、職員の意識を高めていく。③YPを活用し、いじめの未然防止に努める。④横浜子ども会議や人権・福祉委員会の活動の中で、子どもたち自身のいじめ未然防止の意識を高める。⑤いじめ認知シートを活用し全教職員のいじめに対するアンテナを高くするとともに、児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 教務部	①4月の職員室開きを皮切りに、意図的に職員研修などの場で学年や立場を問わず、職員集団の交流が図れるよう教務部を中心に計画を行う。②職員室業務アシスタント・ICT支援員等とも対話の時間を増やし、業務の効率化をより進めていく。③会議の精選・配列等の工夫を進めると共に、職員が相談しやすい雰囲気づくりに努める。
安全管理 担当 防災・管財部	①交通安全教室や防災訓練を行い「自分の身は自分で守る」意識を高め安全教育の充実を図る。②安全研修を継続的にを行い、関係機関主催の不審者対応や地震・災害発生時により適切な対応ができるようにする。③「地域と一体となった安全に対する意識」を高められるよう地域防災拠点訓練等を足がかりに連携を深めていく。④避難訓練の内容を再検討し、よりよいものを実施していく。⑤月1回の安全点検を行い、環境面の安全管理も行っていく。
特別支援教育 担当 特別支援教育部	①校内特別支援委員会をさらに充実させて、個別支援学級、特別支援教室、国際教室、一般級の連携を深めることで、特別な支援を要する児童への支援をさらに充実させる。②関係機関と協力して支援の方法を工夫し、家庭と連携しながらより最適な支援を実践する。③特別支援教育についての研修を行い、教職員の特別支援教育への理解をより深める。④特別支援教室、国際教室の運営を保護者のコンセンサスの元進める。
教職員研修 担当 研究・研修部	①担任外の教職員も含め、それぞれが学びたいことを大切にできる職員集団を形成する。その上で、一つの研修から何を学ぶかを自分自身で考えていけるよう研修の充実を図る。②メンター研修等で、人材育成を目的とした研修を実施していく。③本校の教育課題に即した研修を、引き続き主幹教諭を中心に適時計画し、教職員のスキルアップを図る。
地域人材の活用 担当 交流連携推進部	①引き続き学校運営協議会の方々に、定期的に幅広いご意見を伺いながら教育活動を進めていく。②「つながり」をいかし、初音のまちの材(ひと・もの・こと)に絡めた学習展開を考えていくことで、学習活動のさらなる充実を図っていく。③学びの報告会を中心に、計画的に地域連携を進め関係を深めていく。